



中央公園

WORKSHOP REPORT
ワークショップ報告書



平成26年6月

中央公園ワークショップ参加者一同



目次

1 中央公園のワークショップについて	1
はじめに	1
参加者	1
ワークショップの開催時期と主な内容	1
対象位置	2
キセラ川西および中央公園について	3
2 ワークショップで話し合ってきたこと	4
第1回ワークショップ	4
小学生対象の中央公園のアイデア募集	8
第2回ワークショップ	9
第3回ワークショップ	12
第4回ワークショップ	15
3 まとめ	18
公園の基本方針	18
中央公園基本計画図	19
今後について	20
おわりに	20



1 中央公園のワークショップについて

● はじめに

キセラ川西は、市の中心部に新しく生まれ変わる「まち」です。中央公園は、このキセラ川西の中心部に配置されるシンボリックな公園です。面積は、2.0haと市街地に配置される公園としては規模の大きい公園であり、隣接するせせらぎ遊歩道と共にキセラ川西のシンボルとなるものです。そこで、市民の想いを公園整備に活かし、せせらぎ遊歩道と一緒に地域を育てていくために、ワークショップを行ってきました。

今回は、この公園を整備するための計画をまとめたワークショップであり、今後も引き続き、地域を育てるワークショップ等の活動を重ねていく予定です。本報告書は、この計画段階における中間成果を取りまとめたものです。

● 参加者

- ・ 広報の募集等を通じて集まっていた 32名の市民

● ワークショップの開催時期と主な内容

第1回ワークショップ（平成25年12月15日）

- ◇ 状況把握
- ◇ 公園への思いの共有

第2回ワークショップ（平成26年2月2日）

- ◇ 公園に必要な機能の検討
- ◇ 整備方針の検討

第3回ワークショップ（平成26年3月9日）

- ◇ 機能配置
- ◇ 計画案の検討

第4回ワークショップ（平成26年4月20日）

- ◇ 計画案の最終まとめ



● 対象位置



この地図は、国土地理院発行の2万5千分の1淡色地図を使用したものです

● キセラ川西および中央公園について

キセラ川西は、JRや阪急の駅から近く、市役所や体育館などが集まる市の中心部に位置しています。約22.3haの面積を有し、住宅地や商業施設、病院、公共施設などの配置が予定されており、魅力的なまちづくりが期待されています。

さらに次世代型複合都市を目指し、低炭素のまちづくりやPFI事業の導入、歩いて暮らせるコンパクトなまちづくりなどが取り組まれています。

この魅力的なまちづくりを推進するキセラ川西において、中央公園はシンボリックな存在であり、周囲の公共施設やせせらぎ遊歩道などと連携しつつ、魅力的な空間づくり（ハード）と運営（ソフト面）の充実が求められています。

■ キセラ川西の土地利用



■ 計画地の現状



写真：ワークショップで行った現地調査

2 ワークショップで話し合ってきたこと

● 第1回ワークショップ

- 日時 平成25年12月15日(日) 13:30~16:00
- 場所 川西市役所 7階大会議室
- 出席者 29名(A班8名、B班6名、C班7名、D班8名)
- テーマ 公園のイメージを膨らませよう!

(1) 当日の流れ

①作業の概要説明



ワークショップでの話し合いを進める前に、参加者の皆さんに正確に中央公園のことを把握するため、中央公園の役割や計画の概要などについて説明がありました。あわせて、隣接する「せせらぎ遊歩道」や「キセラ川西」のまちづくりのことなど、公園の計画を考えていく上で関連することなどを整理し、最後にワークショップでの留意点について説明がありました。

②現地確認



説明の後、市役所から中央公園計画地へ移動し、現地で地形図を確認しながら、計画地周辺を確認して回りました。(川西市立総合体育館→川西市市民温水プール→計画地北側の境界付近) 各ポイントでは、公園の大きさや周囲の将来形などの説明がありました。また、せせらぎ遊歩道の幅員である16mを現地でロープを使って測り、体育館と中央公園の間に通る遊歩道のイメージも共有しました。

③意見交換・発表



現地での確認の後、グループに分かれての意見交換を行いました。ここでは、中央公園に対する思いや欲しい施設、留意したい点などについて、それぞれ意見を出し合いました。どの班も、参加された皆さんから活発な意見をいただくことが出来ました。

最後に、各班の代表に話し合った内容について発表していただき、いろいろな意見があったことを全員で共有しました。

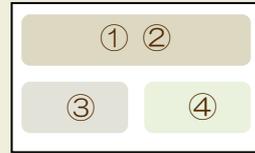


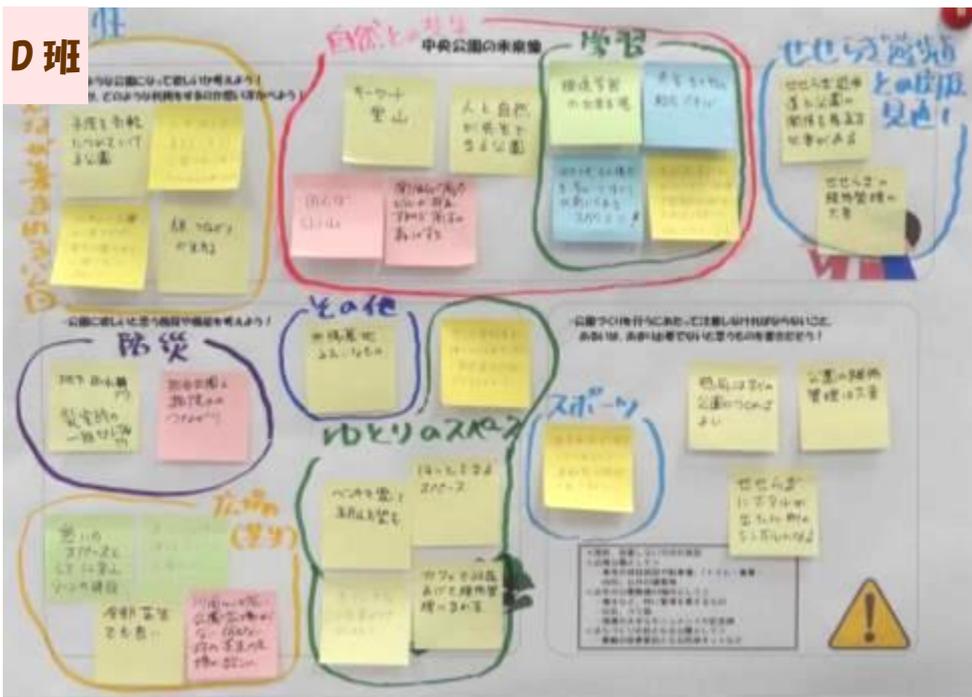
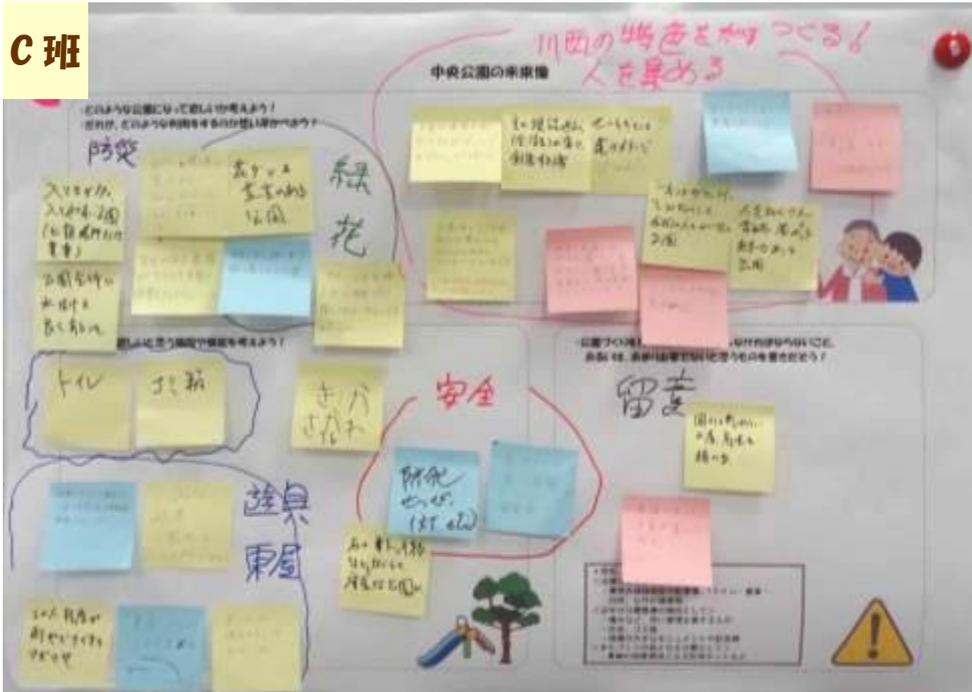
(2) 各班の中央公園に対する主な意見・全体発表の様子

A 班	
<p>【整備の方向性】子どもの創造的な遊び場。市内の小学校の野外体験学習の場。地域イベントの場。避難場所。ゆっくり憩える落ち着いた公園。</p> <p>【欲しい施設】広い芝生広場、防災スツール、木登りのできる木、穴を掘っても良い土山、植栽。(四季を感じられる植栽。河津サクラ、エドヒガン、シバザクラ、川西市の花であるリンドウなど)</p> <p>【要望】設備は必要最低限とする。自動販売機は不要。夜間の安全対策。ゾーン分け(ペット同伴利用、「動と静」)、周辺建物による日照障害やビル風への配慮。</p> <p>【その他】せせらぎ遊歩道との連携。</p>	 
B 班	
<p>【整備の方向性】多世代が楽しめる公園。街の意識が共有できる公園。地域イベント(川西まつり)。多様な使い方。</p> <p>【欲しい施設】森、芝生広場、歴史歩道、畑、ミーティングスペース、トイレ、ベンチ、健康遊具、防災スツール、花壇、散水装置、音響設備のあるステージ、FM局、車の乗入れ可能なグラウンド、ドライブシアター。</p> <p>【要望】夜間の安全対策。ホームレス対策。</p> <p>【その他】せせらぎ遊歩道など周辺地形との一体化。川西の目玉としてアピールできる機会。隣接する病院やマンションへ公園側から積極的に働きかけるような整備。最後まで作り込まず、利用しながら公園を完成させたい。</p>	 
C 班	
<p>【整備の方向性】憩いの空間。緑を楽しめる公園。市民のふれあいが育まれる公園。市内外から親しまれる公園。若い人が集え、創造する場。地域イベント(ご当地グルメ)。</p> <p>【欲しい施設】芝生広場、共同花壇、桜の名所(約200本、市内の古木・老木を移植)、魚の泳ぐ川、シンボルタワー、サッカー場・野球場(⇔公園の面積や形状の都合で設置できない)、トイレ、シンプルな遊具、照明、防犯ブザー、大人も楽しめる自然観察会。</p> <p>【要望】災害時に逃げ込みやすい工夫(入口を多く設け、塀などで公園を囲まない)。日常の安全対策(公園内の見通しを確保する)。</p> <p>【その他】周辺施設や住宅への配慮(プライバシー、騒音)。桜の名所を作ることで川西市が注目され、市民も公園を守ろうとする。</p>	 
D 班	
<p>【整備の方向性】幼児から高齢者までみんなが集まれる公園。自然との共生ができる公園。学びとゆとりが感じられる公園。防災機能をもった公園。</p> <p>【欲しい施設】広い芝生広場、イベント広場、ミニ里山ゾーン、田んぼ、小山、防災施設(地下貯水槽、一次避難地)環境学習ができる場、魚など生き物の紹介パネル、ベンチ(五月山を眺望)、オープンカフェ、健康遊具、無縁墓地。</p> <p>【要望】防災公園と病院の関係を考えてほしい。オープンカフェの収益を公園の管理費に充ててはどうか。</p> <p>【その他】せせらぎ遊歩道との連携。公園の維持管理は大変である。せせらぎに虫がいると街のシンボルとなる。</p>	 

(3) ワークショップの成果

- ① どのような公園になって欲しいか考えよう！
- ② だれが、どのような利用をするのか思い浮かべよう！
- ③ 公園に欲しいと思う施設や機能を考えよう！
- ④ 公園づくりを行うにあたって注意しなければならないこと、あるいは、あまり必要でないと思うものを書きだそう！





第1回ワークショップでは、下記の内容について意見を共有することができました。

第1回 「緑ゆたかな公園」、「多世代が利用、あるいは多世代が交流できる公園」、「シンプルな公園」が、各班で共通の意見となりました。その中で「緑ゆたかな公園」のイメージについては、いろいろな想いがあることを共有しました。

● 小学生対象の中央公園のアイデア募集

第1回目と第2回目のワークショップの間小学生アンケートが行われました。

(1) 小学生を対象としたアンケート調査の概要

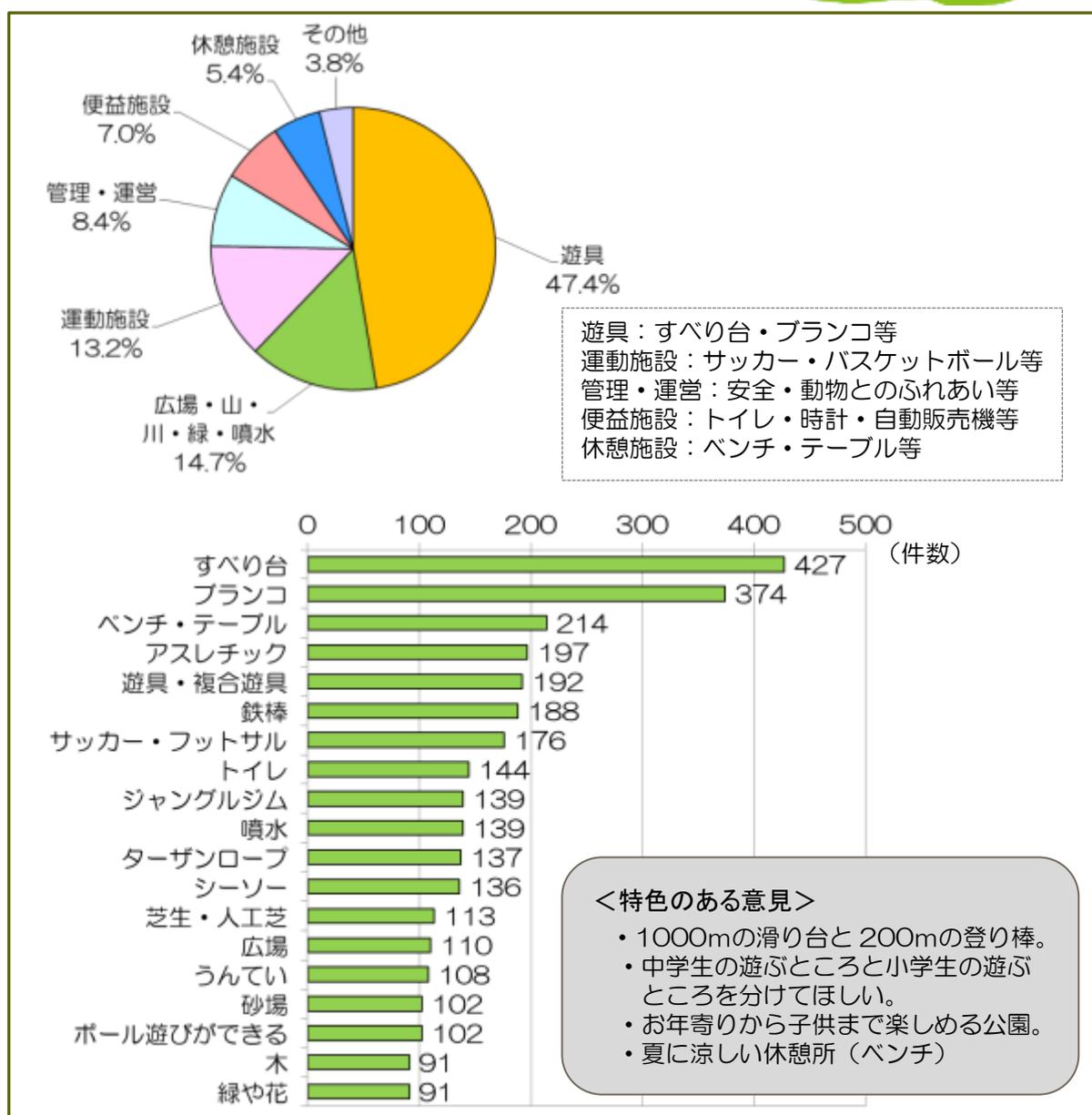
- ・期 間 : 平成25年12月20～平成26年1月9日
- ・対 象 : 川西市立小学校の1年生～6年生
- ・内 容 : 公園の遊具や施設のアイデア募集(自由回答形式)



(2) アンケート結果

- ・総意見数 : 1,383通

■意見傾向



● 第2回ワークショップ

- 日 時 平成 26 年 2 月 2 日 (日) 13:30~16:00
- 場 所 川西市役所 2階 202 会議室
- 出席者 25 名 (A 班 7 名、B 班 5 名、C 班 7 名、D 班 6 名)
- テーマ 公園のイメージを方向づけよう!



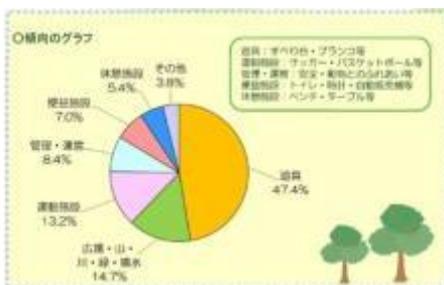
(1) 当日の流れ

①前回の振り返り



川西市より開会のあいさつがあり、その後、前回のワークショップのおさらいを行いました。その中で、「緑ゆたかな公園」、「多世代が利用、あるいは多世代が交流できる公園」、「シンプルな公園」が、各班で共通の意見となっていました。その中で「緑ゆたかな公園」のイメージについては、いろいろな想いがあることを共有しました。

②情報提供



小学生のアンケート結果

た意見の補足説明や参考となる公園（JR尼崎駅近くの潮江緑遊公園）など、参考になる情報の提供をしていただきました。

(1)小学生のアンケート結果報告

中央公園について、川西市内の小学校 16 校から、1,383 通のアイデアや意見をいただきました。ワークショップの作業をはじめる前に、この小学生のアイデアの紹介を行いました。

(2)情報提供

ワークショップの参加者募集時に寄せていただいた



③意見交換・発表



グループに分かれて意見交換を行いました。そこでは、公園のゾーニング（公園敷地を機能や用途別にまとめ、大きさや位置関係を整理すること）を考えた後、各ゾーンに必要な施設や植栽などについて、それぞれ意見を出し合いました。どの班も、活発な意見交換を

行っていたことが出来ました。最後に、各班の代表に発表していただき、話し合った内容についていろいろな意見があったことを全員で共有しました。



(2) 各班の中央公園に対する主な意見・全体発表の様子

A 班	
<p>【ゾーニング】防災広場ゾーン、エントランスゾーン、憩いのゾーン、プレーパークゾーン(⇔せせらぎ遊歩道内の水遊び場との連携)</p> <p>【植栽】広場は芝生とする。/公園周辺建物への配慮として、緩衝帯となる植栽(高木、低木)を配置する。/戸建住宅敷地には落葉対策が必要。/憩いのゾーンは適度な木陰がほしい。/川西市の豊かな環境を紹介する工夫。/サクラは美しいが管理が大変でもある。</p> <p>【施設】広場ゾーンの北側にイベントステージを南向きに配置する。/憩いのゾーンをはじめ、各所にベンチを設ける。</p> <p>【その他】周辺建物への防音対策の依頼。/年間を通して人が集まる賑やかな公園とするためにイベントの企画運営組織が必要である。</p>	 
B 班	
<p>【ゾーニング】広場ゾーン(災害時:防災基地、平時:イベント広場)、森ゾーン(一部プレーパークゾーン⇔せせらぎ遊歩道との連携)</p> <p>【植栽】広場は芝生とし、避難広場には樹木は配置しない。/森は川西らしい里山のイメージとする。/花壇は隣接する病院の入院患者の役にも立つが、毎日の維持管理が必要のため、可能な範囲で配置する。/騒音防止のためプレーパークを囲むように樹木を配置する。</p> <p>【施設】防災広場ゾーンに防災設備、トイレ、イベントステージを配置する。/憩いのゾーンをはじめ、各所にベンチを設ける。</p> <p>【その他】公園の維持管理は、ソフト面を考慮するべき。/イベントは川西まつりや源氏まつりに限定する。/集合住宅や病院の建築計画については、先行する公園計画を知った上で計画すること。</p>	 
C 班	
<p>【ゾーニング】多目的広場ゾーン、エントランスゾーン、子どもスペースゾーン、静かな休憩や緑の体験活動を行うゾーン</p> <p>【植栽】広場芝生とし、外周部は周辺との景観調和を図るよう高木等の植栽を行う。/せせらぎ緑道との隣接部は、里山に近い樹種(クヌギ、コナラなど)を主体とする。(自然学習の場として利用) /目線レベルでの見通しを確保し、閉鎖的な空間を避ける。</p> <p>【施設】公園外周をつなぐ幹線遊歩道を設ける(車いすでも通りやすい舗装)。/エントランスは緊急車両に対応した構成とする。</p> <p>【その他】子どもの遊びスペースの運営には年配ボランティアで組織されている「セーフティガードスタッフ」と連携する方法もある。</p>	 
D 班	
<p>【ゾーニング】エントランス・イベントゾーン、防災ゾーン(芝生広場、花壇)、プレーパークゾーン、桜ゾーン</p> <p>【植栽】プレーパークと戸建住宅の間には緩衝帯を設ける。/広場は芝生とし、その周囲に高木を植栽する。/桜の樹種はソメイヨシノとする。</p> <p>【施設】エントランスに屋根付のステージがほしい。/プレーパークや芝生広場にお母さんやお年寄りが休憩できる四阿などを設ける。(日影の確保)/幼児から小学校高学年までが楽しめる遊具。/他の公園にはないボルダリング等がほしい。/防災用も兼ねて、資材置き場を整備する。</p> <p>【その他】病院からも広場で楽しく遊ぶ姿が見えるようにする。/他の町に誇れる川西のシンボリックな公園として整備したい。</p>	 

(3) ワークショップの成果



第2回ワークショップでは、下記の内容について意見を共有することができました。

第2回

「イベントにも対応できる芝生広場」、「木の多いゾーン（森、里山、サクラ）のエリア」、「こどもの遊び場（プレパーク、遊具のある広場）」が、各班共通の意見でした。その中で、コミュニティ花壇や緑の配置については、さらに内容を検討していく必要があることを確認しました。



● 第3回ワークショップ



- 日 時 平成 26 年 3 月 9 日 (日) 13:30~15:30
- 場 所 川西市役所 2階 202 会議室
- 出席者 21 名 (A 班 5 名、B 班 6 名、C 班 6 名、D 班 4 名)
- テーマ 公園のかたちを固めよう！



(1) 当日の流れ

①前回の振り返り



川西市より開会のあいさつがあり、その後、前回のワークショップのおさらいを行いました。意見では「イベントにも対応できる芝生広場」、「木の多いゾーン（森、里山、サクラ）のエリア」、「こどもの遊び場（プレーパーク、遊具のある広場）」が、各班共通の意見となっていました。その中で、コミュニティ花壇や緑の配置については、さらに内容を検討していく必要があることを確認しました。

②公園計画図の説明



検討用平面図案①

前回までのワークショップの意見を参考に分類された 2 つの計画案について事務局より説明がありました。計画の 2 案の共通点は、「公園の外周や住宅地寄りの樹木は大きくならない樹種を配置する」、「景観と防災に寄与する大きな芝生広場を設ける」、「車いすでも移動しやすい幹線園路を設置する」です。

前回のワークショップで様々な意見となっていた広場の形状や雑木林の場所、サクラや花壇の配置などについて、それぞれの良いところや考えるべき事項について説明がありました。

③意見交換・発表



説明の後に、グループに分かれて意見交換を行いました。そこでは、中央公園の平面案を見比べながら、各案の「良いところ」や「課題」について、それぞれ意見を出し合いました。

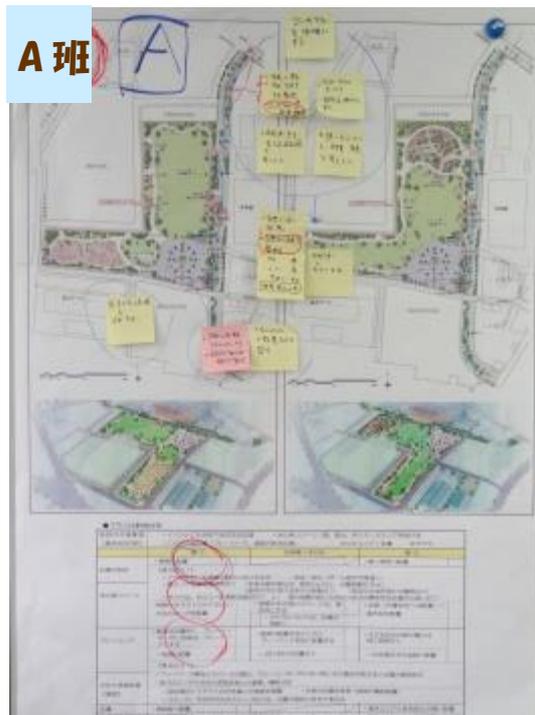
各班共に、活発な意見がだされ公園のイメージがまとめられました。その後、それぞれの班の代表の方に、自分たちが話し合った内容について説明をいただきました。



(2) 各班の中央公園に対する主な意見・全体発表の様子

A 班	
<p>【整備方針】多くの市民が集まり、四季を通して憩う公園 【広場の形状】広く多目的に利用できる案①が望ましい。 【植栽】芝生広場に樹木がないスペースが広すぎると暑い夏の日には誰も利用しない。/サクラ、フジ、モミジなど四季折々に楽しめる植栽。 【プレイエリア】案①は、開放制が高く安全で利用しやすい位置である。 【出会いの広場】モニュメントは、市民の誰からも愛着を持たれる意味合いが必要。この地域にもともとあった煙突の活用は、ふさわしくないのではないか。/避難支援車両の進入に配慮し、舗装は必要である。 【せせらぎ遊歩道】水車の位置はゾーンとの関係を再整理する必要がある。 【その他】芝生広場のステージの位置は北側に配置する案も良い。</p>	 
B 班	
<p>【公園全体】防災上使える避難場所であることが前提である。/多くの世代が楽しめる公園としたい。/施設の配置は使い方を考えるべき。 【広場の形状】防災機能も必要だが、通常利用がしやすい配置が良い。 【植栽】四季を感じることでできる花木がよい。/川西付近に生息している樹木がよい。/花壇は病院側に設けることで、患者さんも楽しむことができる。/サクラは散策路付近などに分散して植栽したほうが良い。/あまり樹木を増やすと、避難がしにくくなるのではないか。 【プレイエリア】幼児用に遊具を配置したエリアを別途設けてほしい。 【その他】最初は施設の少ないシンプルな公園でよい。みんなで考えてプラスしていけばよい。/周遊できる園路があると散策が楽しめる。/エントランス広場と北側園路を結び園路も計画してほしい。</p>	 
C 班	
<p>【広場の形状】広場のステージの位置は、せせらぎ遊歩道に近い案①の方がよい。/管理を考えると、芝生の範囲は大きすぎない方がよい。 【植栽】サクラは、歩きながら楽しめる方がよい。/管理面を考えると、本数は少なくても良い。/戸建住宅予定地の前に雑木林がある方がよい。 【プレイエリア】せせらぎ遊歩道に近い配置が良い。/遊具は少なめにし、地形を利用して遊べる場所にする。/土の掘れる場所がほしい。/小学生アンケート結果を考慮し、すべり台などを設置してあげたい。 【花壇】花壇は毎日管理が必要であり、自宅から離れた公園では難しい。/園芸療法を取り入れる場合は、病院へも協力を得る方法も考えられる。 【その他】モニュメントは、火打処理場の煙突ではない物を考えるべき。</p>	 
D 班	
<p>【公園全体】イベントや防災の視点だけではなく、集客を考え、使い勝手の良い公園にする。/来ると癒される公園となってほしい。 【広場の形状】広場を区分すると子どもの遊びのすみ分けがしやすい。 【植栽】クスノキは根上りがしやすいため、用いない方がよい。 【プレイエリア】様々な体験できるよう、でこぼこがあったり、土が掘れる場所などが必要である。/遊具は木のすべり台などプレーリーダーのいない日でも最低限遊べるものを配置する。/プレーパーク内にせせらぎ遊歩道の水を引き込み、泥遊びなどができるようにする。 【せせらぎ遊歩道】せせらぎ遊歩道と公園の地面の高さを同じにして一体的にする。/水遊びをする子どもの年齢差を考慮した方がよい。 【花壇】花壇は必要であるが、管理が大変なので、できる範囲で行う。 【その他】様々な人が利用できるよう、芝生広場の利用ルールを決める。</p>	 

(3) ワークショップの成果



第3回ワークショップでは、下記の内容について意見を共有することができました。

第3回 コミュニティ花壇は隣接する病院の入院患者の利用も考慮して公園の北側に配置し、車イスでも利用しやすい形状にします。また、緑の配置については、せせらぎ遊歩道との連携をふまえ、北東側に配置し季節を感じられる里山のような空間とします。



● 第4回ワークショップ

- 日 時 平成 26 年 4 月 20 日（日）13:30～15:30
- 場 所 川西市役所 7 階大会議室
- 出席者 20 名（A 班 7 名、B 班 3 名、C 班 4 名、D 班 6 名）
- テーマ 中央公園の「かたち」を確認しよう！



（1）当日の流れ

①前回の振り返り



川西市より開会のあいさつがあり、その後、前回のワークショップのおさらいを行いました。前回は、広場の形状や雑木林の場所、サクラや花壇の配置などについて検討し、コミュニティ花壇は、隣接する病院の入院患者の利用も考慮して、公園の北東側に配置すること。また、季節を感じられる里山のような空間を配置することで概ね合意したことを確認しました。

②公園計画図の説明



前回までのワークショップの意見を参考に作成された計画案について事務局より説明がありました。「街の中心部にできる自然を感じる空間」という考え方にもとづき、街の真ん中に生まれる、誰もが気軽に利用できる癒しの自然空間“里庭”を配置することなど、計画の特徴について説明がありました。

また、今回の計画案が川西市の上位計画と整合が取れていることも確認しました。

③意見交換・発表



説明の後に、興味のあるテーマ別に分かれたグループごとに意見交換を行いました。中央公園の平面案について「良いところ」や「課題」について、意見を出し合いました。その後、それぞれの班で話し合った内容を説明していただきました。それを受けて質問やコメントなどがあり、最後まで活発な意見交換が行われました。

最後に、川西市から全4回にわたるワークショップ終了のあいさつと今後の流れについて説明がありました。



(2) 各班の中央公園に対する主な意見・全体発表の様子

A 班 (催し、イベント)	
<p>【イベントの開催】気軽に低コストでイベントが開催できるよう、電源などの設備を整えておくことで、年間を通じたイベント開催につながると思う。/イベント時は臨時駐輪場を確保する。/エントランス広場でのバザーや盆踊り。/体育館の壁をスクリーンにした野外映画上映会。</p> <p>【ステージ】この地域では音が南向きに広がるため、病院に配慮し、少し北側に南向きに配置する。/機材の搬入路なども検討すべき。/ステージの高さは60cm程度とし、その下を防災用具入れとして活用する。</p> <p>【その他】公園の騒音対策は、病院やマンション側にも願う。/シンボルは、樹木以外にも時計塔なども考えられる。/レンタル品を使用すれば、季節やイベントの度にシンボルを変えることもできる。</p>	
B 班 (花づくり、その他)	
<p>【配置】夏場は日差しが強いため、遊具は木陰の多いせせらぎ遊歩道に近い方が良い。/四阿はせせらぎ遊歩道側に移動する。/プレイゾーンを里庭にする必要はない。/近くに「北雲雀きずきの森」があるので、ここを里庭にする必要はないのではないか。</p> <p>【花と植栽】花壇の規模は必要に応じて増やしていけばよい。/最初は最低限の植栽とし、植栽樹種とエリアを決めて、結婚等の記念に市民が植栽することで、徐々に完成させるのがよい。/四季を感じられる植栽が良いが、落葉樹が多くなるので、落ち葉などの管理が大変になる。</p> <p>【管理】記念樹として植えてもらうことで、管理も積極的にやってもらえるのではないかと。/寄付を募って、管理に回してはどうか。</p> <p>【その他】10代から50代の幅広い年齢層の人が集まれるようにする。</p>	
C 班 (子どもの遊び場)	
<p>【遊具】遊具は対象年齢でゾーン分けをするべき。/ウェルネスゾーンに配置すれば、遊具を集約でき、高齢者が子どもの見守りもできる。/複数の子どもが同時に利用できるのも、ブランコより複合遊具が良い。/遊具エリアを広くしてほしい。/子ども専用のトイレがあればより良い。</p> <p>【プレーパーク】プレーリーダーを雇用する資金や組織運営などの条件が満たせないならば実施しない方がよい。/遊びによって地形や風景が徐々に変わっても良いようにすべきである。/里庭エリアにも遊具が必要。/せせらぎ遊歩道での水遊び用に、洗い場があると良い。</p> <p>【その他の意見】公園の周回路に距離表示をつけることで、ジョギングやウォーキングの利用者が増え、死角が減る効果がある。/生き物観察会や、イルミネーションの公募など、子ども向けのイベントもほしい。</p>	
D 班 (自然とのふれあい)	
<p>【全体計画】この公園の特徴として、川と一体となった公園であること、里庭の配置などにより自然とのふれあいができる公園であることが最も重要である。/芝生を減らし、土で遊べる広場を増やしてはどうか。</p> <p>【里庭】プレーパークは、あくまでも自然を楽しむことができる活動空間とする。/クヌギやコナラなど雑木林系の樹木を植栽し、カブトムシやオオムラサキの生息環境をつくる。/せせらぎ遊歩道は虫が生息できる環境にしたい。/自然観察会や炭作り体験の場として活用できる。</p> <p>【植栽】桜の植栽の一部は集約して植えてほしい。/桜の種類を変え、長い期間楽しめるようにする(エドヒガンは川西市に自生する種である)。</p> <p>【その他】出会いの庭から病院方向への園路を加えてほしい。/公園外周部は閉鎖的にならないようにする。/防災時の車両の出入りを考慮する。/地域の生産者と連携したトラック市の場として公園を活用できる。</p>	

(3) ワークショップの成果

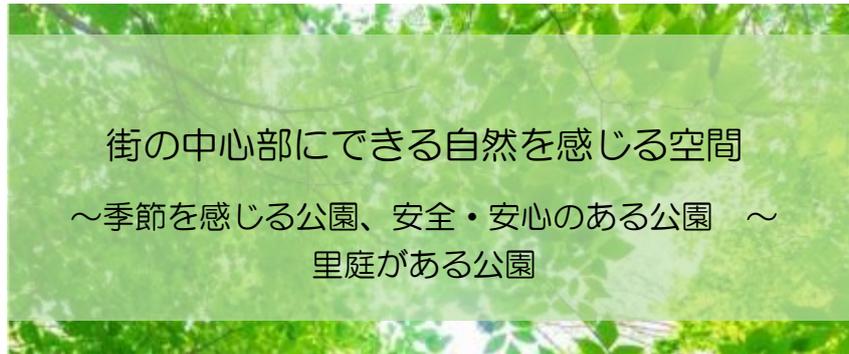
これまでのワークショップでの意見を参考に作成された検討用平面図案について、テーマ別に分かれた各班の視点から、「中央公園のかたち」の確認を行いました。



3 まとめ

● 公園の基本方針

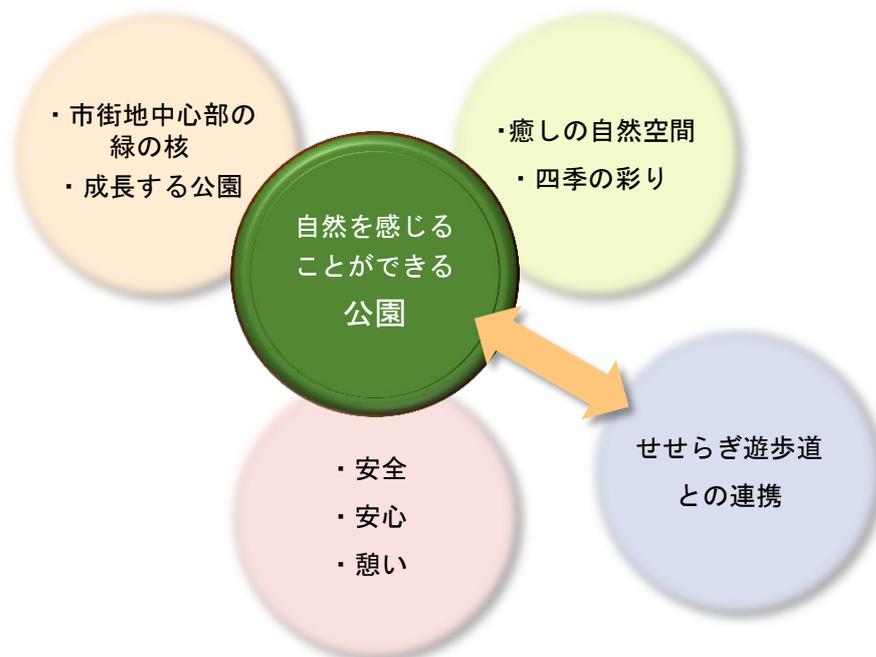
■ テーマ



■ 中央公園の特色

- ・まちの真ん中に生まれる、誰もが気軽に利用できる癒やしの自然空間
- ・緑の核「芝生広場」と活動のある雑木林「里庭」からなる公園
- ・四季を感じることができ、季節の彩りを楽しむことができる公園
- ・まちに「安全」と「安心」、「憩い」が染み出していく公園
- ・時の流れとともに成長していく公園

■ 概念図



中央公園計画図

公園の名称や愛称について
も、検討していく。

成長する公園として、植栽や
ベンチの配置など全て完成
させるのではなく、段階的に
仕上げていく。

コミュニティ花たん、ウエルネスエリア施設イメージ
(せせらぎ遊歩道施設を公園内に配置)



病院予定地

イベント時の音のことを考え、
病院を背してステージを設置
できるスペースを設ける。

里庭(プレーパーク活動時)イメージ



戸建住宅予定地

夏場も遊べるスペー
スとして、せせらぎ遊
歩道の近くの樹木の
多いところへ遊具を
配置する。

ステージは南向きに配
置した方が良く、もう
少し西へ移動させる。

体育館

芝生広場
一時遊憩スペース

ウエルネスエリアの健康
遊具をこちらへ移動させ
て、遊具エリアを広げる。

温水プール

遊具エリア施設イメージ



芝生広場イメージ



集合住宅予定地

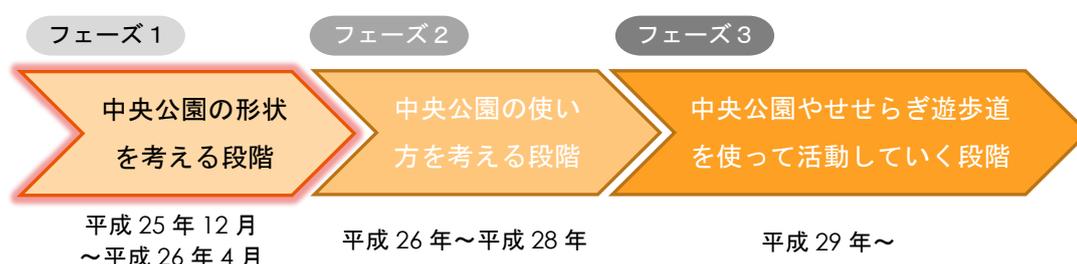


青枠内は、第4回目のワークショップでた課題であり、設計時にお
ける今後の検討事項とします。

● 今後について

今回は、4回にわたって公園計画のワークショップを行ってきました。これをワークショップの第一段階〈フェーズ 1〉と捉えると、今後、公園の活用のための準備段階を〈フェーズ 2〉、完成した公園で実際に活動していく段階を〈フェーズ 3〉として、展開していくことが求められます。

今後、さらに中央公園やキセラ川西へ市民の方々に感心を持っていただき、川西市を盛り上げていくよう、〈フェーズ 2〉、〈フェーズ 3〉におけるワークショップ等の活動を継続させていくことが重要と考えます。



● おわりに

今回のワークショップでは、公園内に里庭といった空間が設けられました。これは第 1 回目のワークショップより意見がでていた里山を公園内に設けるといった考えが活かされたものです。川西市には日本一の里山「黒川地区」があります。この黒川地区が日本一の里山と称される主な理由として、平安時代から続いている里山の利活用があげられています。

公園やまちづくりもこれと同じです。地域の人々が感心をもって公園や地域を活用したり PR することから始まり、人が集まってきても恥ずかしくないように手入れををする。それが次第に「地域の誇り」の場所へと発展していく。このような好循環を築くことで地域の輝きが増していきます。

中央公園に設けられた里庭は、この中央公園やせせらぎ遊歩道から始まる地域活動のバロメータになるかもしれません。地域で盛り上げるキセラ川西が川西市全体の好循環を牽引していくことを願い、以上のとおり報告します。

平成 26 年 5 月

中央公園ワークショップ参加者一同

■中央公園市民ワークショップ参加メンバー（敬称略、五十音順）

猪飼 和枝	高上馬 悦代	中塚 直美
池田 啓太	小花 治子	中本 二郎
板野 照枝	佐伯 行昭	原 尚弘
延命寺 陽子	佐々木 清二	藤原 和夫
岡田 光	澁野 敏彦	藤原 光一
岡本 敬子	田中 義人	細井 成
荻田 雅仁	田畑 益郎	牧田 良蔵
角田 啓一	田村 幹夫	増子 修一
加茂 芳太郎	坪井 祥	三木 淳子
河副 健一郎	徳田 裕平	安田 萬作
木下 ゆき子	中郷 友至	

■オブザーバー

- ・中京大学総合政策学部 教授 佐道 明広
- ・中京大学総合政策学部 学生（8名）

◎ 事務局支援

玉野総合コンサルタント株式会社